

2015年2月9日

## 報告書

国際開発工学専攻  
修士2年  
桐山 弘有助

私は2015年、韓国とシンガポールに交換留学をした。理由としては、アジア各国の都市計画の勉強をしたかったからというもの、と留学を通していろいろな経験をしたかったからである。留学先はアジアの大学で英語が基本的に使われている条件で探し、以下の2つの大学にした。

大学名（国名）／留学時期

- ① KAIST（大韓民国）／ 2015年3月2日～2015年5月22日
- ② シンガポール国立大学（シンガポール）／ 2015年8月3日～2015年12月5日

以降、この2つの大学での活動内容に関し下記する。

### ① KAIST（大韓民国）

#### 留学先（参加プログラム／受入れ機関）の概略

TKT CAMPUS Asia は東京工業大学、清華大学、KAISTの日中韓の3大学間で結ばれている協定プログラムである。東工大から留学する場合、留学目的により3つのプログラム（サマープログラム、 Semester単位、研究のみ）が用意されており選択することができ、私はKAISTでの前期の研究と授業（Semester単位）のプログラムに申し込んだ。KAIST（韓国科学技術院）は大田広域市に本部を



図1：KAISTのキャンパス

置いている韓国国立大学法人のひとつである。前身である韓国科学院(KAIS)は、1971年に国内初の研究中心の理工系大学院として発足し、比較的歴史の浅い大学である。しかしながら、近年はWorld University Rankings 2014では51位に位置するなど、世界的に高く評価されている。

## 留学中の活動

私は授業と研究の枠でプログラムに申し込んだため、基本的な活動として研究と授業の受講となった。研究は配属された研究室でのデスクで行い、不自由は特になかった。研究室の学生の意見を参考に二つの授業を履修登録した。学部・院問わず、KAISTでの授業のほとんどは英語で実施される。そのため、大学院の授業にもなると、学生のリスニング・スピーキング能力は非常に高く、授業中には英語でのディスカッションが活発に行われる。しかしながら、ネイティブスピーカーではないため、スピーキングの速度は比較的遅く、また **Japanese English** と発音が似ているため、とても聞き取りやすい。KAISTは、私のように英語が習熟していない者にとって留学するにはとても良い環境だと思う。研究に関しては、東京工業大学で行っていたものをひきつづき取り組むで、所属先の研究室のグループセミナーで発表をしたりした。

授業や研究以外の活動では、留学生向けにいくつかの課外活動が用意されている。KAISTの留学生交流課では、韓国語や韓国の文化を学ぶ授業、留学生用の交流イベントを提供しており、そのようなイベントに顔を出して、他の留学生たちと交流を深めた。また、東京工業大学に留学していた韓国人学生と食事をしたり、外に出かける機会もあった。語学に関しては、韓国語はもちろん話せるにこしたことはないが、KAISTの学生はみな英語に堪能であるので、別に話せなくても特段問題はなかったが、旅行や学外で飲食する場合、ハングルの意味が分かると役に立つと思う。

## 感想

語学力の向上だけでなく、留学はまったく新しい環境でいろいろな人と出会い、知見を広げるいい機会になった。当プログラムは、3大学の協定プログラムであるため、学生間のネットワークがともしっかりしており、過去にもたくさんの学生が3大学を行き来している。私も過去に当プログラムを利用した日本人、韓国人学生に大変お世話になった。



図2：所属した研究室の様子



図3：他の交換留学生との交流



図5：韓国人学生との交流

## ②シンガポール国立大学 (シンガポール)

### 留学先大学の概略

シンガポール国立大学とは、シンガポール独立以前である1905年に創立した国立大学で、2015年度のQS世界大学ランキングでは12位と、アジア圏で一位であり、近年急速に存在感を増している。また、学生の約20%は外国人留学生であり、40カ国のトップ大学と300の交換留学制度を設けるなど、世界に窓口が向いてあることもこの大学の特徴である。私は、英語圏のアジアの大学で勉強したいと考えていたため、当大学を志望したが、やはりほかの日本人留学生もアジアを意識している学生が多いように感じた。



図6：NUSのキャンパス

### 留学中の勉学・研究

授業の履修のみで申請したため、研究室には所属していなかった。授業は基本的には、大人数での講義と少人数でのチュートリアルに分かれている。講義ではインプットが、チュートリアルではアウトプットが求められ、日本での授業と比べプレゼンテーションの機会が多かった。また、シンガポール国立大学の学生の授業参加度はきわめて高く、グループや個人でのプレゼンテーションも高いクオリティ



図7：講義の様子

が求められ、授業の準備はしっかりと行わなければならない。授業の管理は、webページで行い、そこに授業の内容や課題の情報がアップロードされており、授業によっては授業の動画をアップロードしているため、授業に参加しそびれたり、内容を聞き逃したりしても、後ほど確認できる。

### 留学中に行った勉学・研究以外の活動

留学では、インターンシップやボランティア事業など授業の履修以外にも積極的に活動を行った。インターンシップでは、週に2日間日系のインキュベーション企業で働かせていただき、その一環として、ある企業の商品の販売業務を行った。またボランティア活動としては、シンガポールでの歌舞伎公演の通訳やカンボジアのアウトソーシング事業の手伝いなどいくつか行った。このような普段経験することができないようなことができ、とても勉強になった。



図8：旅行中の写真

また、シンガポールは東南アジアの中心に位置していることから、他の東南アジア諸国に旅行に出やすく、私を含め、友人も休みの日を利用して、東南アジアのいろいろな都市を回った。

## 感想

今回の留学ではいろいろなことに挑戦することを目標立てていた。この目標の理由は、社会人になる前にいろいろと挑戦し、失敗しておきたかったからだ。そのため、留学期間中は、研究活動や授業の履修だけでなくインターンシップやボランティア活動、その他さまざまなことに取り組んでおり、そういった活動をしているうちにそれまでの自分がいかに限界を決めて、前に出ることを恐れていたかに気づくことができた。たとえば、授業ではネイティブの前でプレゼンをしたり、インターンでは英語での販売業をするなど、はじめは私の英語力では到底無理だと思っていたが、実際にやりとげ、とてもやりがいを感じた。留学を通して、そのような意識を変える経験ができたことは私の人生にとって、とても意味があったと思う。

(以上)